

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	青少年の社会参加・体験活動の機会づくりに要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	石井 邦男			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	青少年関係団体間の連携をより推進し、事業の更なる充実化を図っていく。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	青少年関係団体間の連携をより推進し、事業の更なる充実化を図っていく。
②①に基づく取組み結果	青少年育成推進会議と青少年相談員連絡協議会が共催し、東日本大震災被災地支援を通じた青少年健全育成事業として、「復興支援チャリティフェスタ」を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	青少年及び関係団体	意図(対象をどうするのか)	青少年健全育成及び団体の活性化
②事務事業の概要	青少年への自然体験・社会体験の機会提供及び関係団体の活動支援			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	社会構造の変化に伴い、従来は自然発生した異年齢交流や自然体験、社会体験等青少年期における社会性形成の場が減少傾向にあり、それらの機会の必要性はより求められている。事業への期待は高く、その傾向は進行していくと思われる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	青少年関係団体間の連携に取り組み、青少年育成推進会議と青少年相談員連絡協議会が共催事業を実施するなど、青少年健全育成事業の充実化を図った結果、延べ10,000人以上が青少年健全育成に係るイベントに参加した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	元気っ子ゼミナル参加者数	55	47	48	人	業務取得
	ii	成人の日記念行事実委会議数	10	11	12	回	業務取得
	iii	各団体活動数	159	162	154	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	8,091	8,142	金額(千円)	内容		6,787	
国支出金(千円)	0	0	1,134	成人式会場設営等委託		0	
県支出金(千円)	235	235	388	成人式記念行事実行委員会負担金		235	
市債その他(千円)	0	0	2,408	青少年教育関係団体等活動補助金		0	
一般財源(千円)	7,856	7,907				6,552	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	社会全体の規範意識の希薄化等により、地域の教育力の重要性が増す中、事業の担い手の確保が課題となっている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	比較的低コストで事業効果も高く効率性は極めて高いが、補助金がより効果的に使われるよう精査していくため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初	0	H25からの繰越		
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正		現年分		
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成27年度への繰越額					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	非行防止対策の推進に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	5	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	千葉 仁			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	「こども110番の家」の増設に努める。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	地域等との連携を強化し「こども110番の家」の設置の啓発に努め、増設を図る。
②①に基づく取組み結果	既設協力者の高齢化による辞退及び転出並びに協力店舗の閉鎖等を調査・整理した結果、1193件の設置となった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の青少年	意図(対象をどうするのか)	①非行の早期発見、早期指導により青少年の非行を防止する②速やかに情報を発信し青少年の安全確保を図る。
②事務事業の概要	・子ども達の非行防止を図るため、(計画補導、夜間補導、市内一斉補導等)を行う。 ・子ども達の安全確保を図るため、子ども安全メールにより情報を発信する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	・小中学生による殺人事件の発生等、犯罪、非行の低年齢化が進んでいる反面、小中学生が犯罪被害者となる事件が数多く発生している。 ・子ども安全メールの発信に伴う、情報提供の迅速化や「こども110番の家」の増設の要望がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	補導、相談等の活動において青少年非行の早期発見、早期指導を実施することにより、青少年の健全育成の向上が図られた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	子ども安全メール登録者数	7,881	5,163	5,786	人	業務取得
	ii	地域見守り活動従事者数	1,030	962	1,187	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	7,284	6,626	金額(千円)			9,682	
国支出金(千円)			150			青少年センター運営協議会委員報酬	
県支出金(千円)	250	250	881			青少年補導員報酬	
市債その他(千円)			199			青少年センターだより「緑の子」印刷	
一般財源(千円)	7,034	6,376	176			青少年補導員連絡協議会補助金	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後ますます低年齢層による非行が増加するとともに、犯罪被害者となるケースも増えるものと思われる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	家庭、学校、地域又関係機関との連携を図りながら、補導活動への協力や子ども達の安全に関心を持ってもらうなど地域ぐるみで子ども達を見守り、子ども達が心身ともに健康で安全な生活を送れる環境をつくった。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H25からの繰越
		H25⇒26繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		平成27年度への繰越額(単位:千円)			